真岡市都市計画マスタープラン一部改定版（案）に対するパブリック・コメント　意見の概要と市の考え方

（提出者１名、提案総数１項目）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 計画内容等 | 提出された意見提言等の内容 | 意見に対する市の考え方 | 修正の有無 |
| １ | Ｐ．４４第２章　まちづくりの目標と将来フレーム３　将来都市構造Ｐ．６７～９８ 第４章　地域別構想（５）まちづくりの方針土地利用の方針 | 市民意向調査において、「住まい周辺の土地利用状況」では、「幾つかの住宅が集まった農村集落地」が最も多い。また、「今後の住まい周辺の土地利用の在り方」では、「現在の土地利用のままでよい」が最も多く、次いで「必要に応じて新たな開発（農地を宅地などに転換）を行う」となっている。そのため、コンパクトシティの考え方のもとでは、アンケート結果がまちづくりに反映されていない。農村集落地の方針においては（例えば山前地域の方針）、主に保全、維持（最低限のサービス）との文言に終始しているが、一方で市街地においては整備促進による活性化を目指す文言が目立つ。宇都宮市では市街化調整区域のあり方に関する方針が策定されているが、真岡市にはない。真岡に住んでいるのは先代から受け継いだ土地を維持するためであり、もしコンパクトシティの考え方を採用し、街中への移住を推進するのであれば真岡市には住まない。市民として市街化区域に居住する市民と変わらない納税を行っている、市が提供するサービスに差があり、違和感を覚える。 | 本市におけるコンパクトシティでは、中心市街地などの中心拠点への都市機能の集約化のほか、農村集落地を含めた生活拠点から中心拠点や地域間への公共交通などのアクセス性の確保により、利便性の向上を図るとともに、コミュニティの維持や各地域の活性化を図るものです。本市の将来都市構造は、このコンパクトシティの考え方に基づき、アンケート結果における意向や人口減少、少子高齢化などの社会情勢の変化を踏まえ、暮らしやすいまちづくりを推進するため、設定しております。 | 無 |